

公益信託世田谷まちづくりファンド

第30回助成事業 審査講評

まちづくり活動部門

【2回目応募グループ】

< 3-1 HOME IN JAPAN >

- ・精力的にイベントを開催し、他のまちづくり団体との協働にもチャレンジされて活動が広がっていることがよくわかりました。今年度は他エリアからのアクセスの良さという点を踏まえて区内で恒常的な活動拠点の確保を目指されているということで、戦略的に活動を積み重ねられている点も高く評価させていただきました。

< 3-2 Mishuku R. 420 >

- ・各所と丁寧に調整し、まちの身の丈にあった、意味のある空間を着実に作り出してきたこと、これからも作り出そうとしているところが素晴らしいと評価されました。置かれたベンチが、まちを窮屈なものにせず、多くの人たちがのびやかにまちを使い始めるきっかけになっていったらいいと思います。

< 3-3 ひきこもり居場所カフェ >

- ・外に出る、人と関わるということに大きなハードルを抱えるひきこもりの方がたを、多様な活動を行うことで参加を増やしている実績を高く評価します。オンラインやハイブリッド開催もそうしたハードルを下げる効果を持ったように感じました。自己評価にも記載されていたように、より一層多くの多様な人との関わりをぜひ模索してください。

< 3-4 一般社団法人イヴの木 >

- ・活動を重ねる中で、様々な出会いによって新たな活動テーマを得るなど、展開が感じられました。逆に団体としての確固たる目的や、啓蒙活動といっても誰を対象に行っているのかなど、あいまいな部分も多い（あるいは伝えきれていない）ように感じます。今後の継続的な展開と共にご検討いただければと思います。

< 3 - 5 世田谷実践室 >

- ・まちづくり活動に試行錯誤は必要なことだと考えております。昨年度の活動を通じて新たな気づきや発見、地域とのつながりが生まれ、それを踏まえてより具体的な活動になりつつあると感じています。調査や勉強会などメンバーへのインプットの比重がやや多い印象もある計画ですが、マーケットの開催や他団体との交流などを通じて、フェンド終了後や他の商店街での展開についての計画を具体化できることを期待しています。

< 3 - 6 ダナダナ >

- ・前は新型コロナウイルス感染拡大のため「食」「知」「創」の3本建てワークショップのうち、「知」「創」は規模が縮小され知人やご近所対象での実施となり「食」は実施できなかったのが今年計画通り実施されることを期待します。目的とする「商店街の賑わいを取り戻す」とワークショップの因果関係がわかりにくいので活動を通じてわかりやすく示してもらえるとよいと思いました。

< 3 - 7 北沢川文化遺産保存の会 >

- ・地図やHPや動画や冊子など、ツールを作ることに助成金を使う企画については、ツールの内容や出来よりもそれを作ることでもたらされる効果、の方に大きな注目が集まります。今回の助成にかかる活動の効果で、どんな素敵なことが起こったか？ 来年、お話しをお伺いできるのを楽しみにしております。